

‘赤ちゃんに対する気持ち質問票’を用いた 母親の乳児への不適切な養育に対する スクリーニングの有用性

Nishigori et al. Validation of the mother-to-infant bonding scale for infant maltreatment by mothers at one month postpartum: An adjunct study of the Japan Environment and Children's Study. 2022;5(3):366-369.
doi:[10.31662/jmaj.2022-0041](https://doi.org/10.31662/jmaj.2022-0041)



【はじめに】

母親が赤ちゃんに対して愛着や情緒的な絆を形成できず、赤ちゃんの世話を拒否したり怒りや拒絶を感じたりする状態を、ボンディング不全と言います。日本では、乳児虐待の防止や母子ケアのため、産後一か月の時点でボンディング不全を評価する「赤ちゃんに対する気持ち質問票」が広く使われています。本研究では、ボンディング不全のスクリーニングにこの質問票が有用であるかを検討しました。

【調査項目】

産後一か月の母親3,225名を対象に以下の調査を行い、「赤ちゃんに対する気持ち質問票」の回答が母親の行動を判別できているかを解析しました。

①「赤ちゃんに対する気持ち質問票」の調査

「赤ちゃんに対する気持ち質問票」は、10項目の質問に0～3の点数で答える質問票で、得点が高いほどボンディング不全の傾向が高くなります。得られた点数は、

1) 全10項目、2) ‘愛情不足’に関わる4項目、3) ‘怒りと拒絶’に関わる4項目、に分けて解析しました。

②母親の乳児に対する不適切な行動の調査

以下の行動の頻度を3つの選択肢から回答してもらいました。

- ・赤ちゃんを家に1人で残して出かけることがある。
- ・赤ちゃんが泣いていても放っておくことがある。
- ・赤ちゃんを叩くことがある。



【結果】

「赤ちゃんに対する気持ち質問票」の判別能 (AUC)
※AUCの値が1に近いほど判別能が高いことを示します

	全10項目	愛情不足	怒りと拒絶
赤ちゃんを家に1人で残す	0.526	0.521	0.519
赤ちゃんが泣いていても放っておく	0.602	0.590	0.562
赤ちゃんを叩く	0.783	0.694	0.831

「赤ちゃんを叩く」について、「赤ちゃんに対する気持ち質問票」の‘怒りと拒絶’の項目のAUCが0.831となりました。「赤ちゃんを家に1人で残す」、「赤ちゃんが泣いていても放っておく」は、どの項目もAUCが0.7未満となり、スクリーニングに有用性は見出されませんでした。

【この調査でわかったこと】

「赤ちゃんを叩く」行動の可能性は、「赤ちゃんの気持ち質問票」の‘怒りと拒絶’に関する項目の点数で判別できることがわかりました。この結果は、「赤ちゃんの気持ち質問票」の全項目の点数が高くない場合でも母親を支援する必要があることを示すもので、乳児虐待の防止や抑制に役立つ可能性があります。